

クラス番号	633	担当教員名	野尻 紀恵
テーマ	子どもが抱える生活課題について考える ― 子どもが安心して暮らすための地域支援ネットワーク ―		
著書・論文	『児童福祉の地域ネットワーク』（共著：相川書房：2009 年）、『社会福祉の理論と制度』（共著：勁草書房：2010 年）、『社会福祉論』（共著：久美出版：2010 年）、他		
研究課題等	【研究課題】 1. 福祉と教育の関連をめぐる歴史的研究 2. 日本におけるスクールソーシャルワークの方法論 3. 生活課題を抱える子どもたちを支援するためのネットワーク構築に関する研究		
ゼミナール概要			
キーワード：スクールソーシャルワーク、子どもの貧困、教育福祉、福祉教育、ボランティア			
〈私の課題意識とゼミの目的〉 私は高等学校の教員を経て、大阪府茨木市でスクールソーシャルワーカーとして活動をしてきました。常に「子どもの抱える生活課題」への支援のあり方、また、それぞれの子どもが持つ「強み」を見つめ、子どもをエンパワメントする支援とはどのようなものであるのかについて考え、実践を試みてきました。 子どもは人間としての誇りを持って育つ権利を有しています。しかし現実には、子どもは様々な困難を抱えています。実際の子どもの生活課題は複雑なのです。子どもの抱える生活課題の背景には、貧困や生活格差の問題、子どもに関心が向けられない地域や家族の実態というような、生活実態の困難さが多々存在します。さらには、社会の崩壊、地域社会や家庭・親子関係にまで及ぶ人間関係の疎外なども視野に入れなければなりません。基本的に重要なことは、子どもの生活の問題を全面的にとらえること、子どもの現実についてリアルに捉えることです。それらをしっかりと踏まえた上で、子どもを取り巻く環境（家庭、学校、地域など）への福祉的アプローチ、およびネットワーク構築について検討していきたいと思っています。			
〈ゼミの進め方〉 ゼミのみなさんと協議しながら進めていきます。ゼミのみなさんへの方針は、「共に、丁寧に、考え、行動する」です。子どもが過ごす地域や学校といった現場や、スクールソーシャルワークの実践現場にフィールドワークに出かけ、課題に向き合ってディスカッションをすることを大切にします。また考えをきちんと文章に表現できることを目標にします。みなさんと時間を共有し、学生も教員も共に刺激しあえるゼミにしたいと思います。			
〈ゼミの計画〉 3 年次 1. 子どもの抱える課題や子どもの権利に関する文献を講読 2. 子どもが過ごす地域に出てフィールドワーク ①夏休み期間にゼミ合宿（3、4 年生合同） ②研究会、シンポジウム等への参加 ③3、4 年生合同グループによる課題研究（文献研究およびフィールドワーク） ④2 月、スクールソーシャルワーク現場・子どもの地域活動現場にフィールドワーク 3. ゼミ生各自がテーマを設定し、文献研究とフィールド研究（参与観察、インタビュー調査など） 4 年次 1. 卒論テーマに沿って文献研究整理 2. 引き続きフィールドに出かけて研究 3. 卒業論文の執筆 4. 国家試験に向けての勉強会			
担当教員からのメッセージ			
私は学生時代、卒業論文のために大学近くのある一軒のお宅に通っていました。1 年半の間に週 2 回伺い、お母さんと赤ちゃんの関わりを観察し、卒論にまとめたのです。観察を快く受けて下さった A さんの赤ちゃんが大学生になる頃まで、時々出会い、季節のお便りを交わしていました。とても貴重な体験をさせていただくことができました。これが今の私の原点なのかもしれません。また、観察を論文にまとめるための文献研究も必死で行った覚えがあります。私の指導教官の著書に『見えないアルバム』があります。私は、見えないけれど大切な事をつかもうとしています。人とつながり、それによって得られるものは刺激的で、学びを深めようという意欲につながります。みなさんにも多くの人とつながり、体験を通して自己を成長させて欲しい、と願っています。			